
やさしい王様

独マサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やせじい王様

【著者名】

独マサ
サ

N2492D

【あらすじ】

あるとこりにやせじい王様がいました。平和な毎日をおくつていたある日、悪魔がやってきたのです。

あるところに王様がいました。大変優しい王様で、國中の人々から愛されていました。

王様はみんなの期待に応えるために一生懸命がんばっています。時には苦しいこともあります。しかし國民の笑顔を見ることで、元気を取り戻しては、努力をしていました。

そんなある日平和なこの國にあくまがやつてきて、悪さを繰り返すようになりました。

空から人に泥をぶつけたり、窓を割つたり、食べ物を盗んだり、家畜をおどろかしたり。

思いつくことをあくまは、どんどんやつていきました。

王様はあくまを捕まえるために兵士を送りましたが、あくまはすばしつこくて、追いつめても空を飛んで、逃げてしましました。しかし大人数に一人ではかないません。あるときあくまが油断し寝ているところを取り囮み、つかまえることに成功しました。

王様の前につけられてきたあくまに、王様はたくさん怒りました。そしてこうたずねました。

「どうして人の嫌がることばかりするんだ!!」

あくまは答えました。

「幸せそうな顔をみるとむかつくんだ。困つてる顔や嫌がる顔を見るとうれしくなるからさーおれは悪魔だからな。」

それを聞いた王様の怒りは爆発しました。

「ほんなあくまはすぐに殺してしまえ!!すぐに処刑の準備をしろ

!」

命令をうけた兵士達が、中庭で処刑の準備をととのえました。

あくまはもうじぶんされるのをまづばかり。

少し落ち着いた王様はあくまに言いました。

「最後になにか言つことはないか?」

するとあくまはこきなり泣き始めました。

「悪かった。わるかつたよう。もう嫌がられる」とはしないから。

許してくれ

王様はしかし聞き入れません。

するとあくまはさうに泣きじゅくりました。

「本当は一人でさびしかったんだ。あくまだ一つて言つてみんな逃げてしまつんだ。

だから、みんなの注意をひこいつとしたんだ。仲間になりたかっただけなのに……」

いつも言つのです。

王様はドキッとしました。国を平和にするためにがんばつているのに、国民党は自分達が困つているときだけやつてくる。王様のこいつも実はせびしかったのです。

あくまが可愛いやうに思えてきました。

「あくまは、ほんとうはせびしくて嫌がらせをしてたと聞ねつ。みんなに仲間にしてあげるよつて言つてあげよつ。」

いつも言つてあくまを許してあげました。

あくまはもうこれ以上ないくらいの喜びようです。

王様は国の民を集めると事情を説明しました。みんなは一応納得して、あくまを仲間として受け入れました。
あくまは国に住み、生活を始めました。空を飛べるので、郵便やさんとして働きました。
国のひとの中にはよくしてくれる人もいて、あくまは幸せでこいつぱいでした。

しかし。あくまの人には係わりを持つとうとしませんでした。それどころかあくまに嫌がらせを受けたことがある人たちが中心になつて、すこしづつあくまをいじめるようになりました。
仕方ありません。憎しみのこころを抑えられなかつたのです。あく

まは我慢しました。何をいわれようと、石をなげられ、水をかけられ、笑われても、王様への感謝の心があつたので我慢し続けました。いじめはさらにひどくなり、ついにはしつぽを切られました。そして耳さえも片方切られてしまいました。あくまはもう我慢できませんでした。ついに怒りのこころに火がつきました。なにがなんだかわからなくなつたあくまは、いじめられた人達の家やそこらじゅうに火をつけ周り、壊しました。その火が風にあおられて広がり、町のほとんどをやきつくしてしまったのです。

家を失つた人々は怒り、あくまを探しましたが、どこにもいません。怒りやら悲しみやらに包まれた感情はもう止まりませんでした。その矛先はあくまをゆるした王様に向けられました。人々は王様を殺して、お妃様や王の一族を全て殺してしまいました。

王様を失つた人々は、多くの人がおれが次の王様になると言つて争いを始めてしまいました。ただでさえ焼かれていた街も、畠も建物も焼かれ、疑いと憎しみであふれかえりました。多くの人が殺し合ひ、食べ物はなくなつていきました。

そうです。この国は亡んでしまったのです。

もしもあのとき王様があくまを許さずに処刑しておけば、こんなことにならなかつたかもしません。もしもあなたが王様ならどうしましたか？

そうそう、あくまはどこかへ消えてしましましたが、今もどこかで生きているかもしません。

(後書き)

童話ではなく、寓話です。
軽く読んでもらえれば幸いです。

『魔のぬいぐるみ』

あーくまのぬいぐるみ 程度のものですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2492d/>

やさしい王様

2010年11月16日08時32分発行